

もっと知りたい方へ

レッドデータブック、ブルーデータブックの事をもっと知りたい方は次のURLを参考にしてください。

URL <https://www.city.gifu.lg.jp/kurashi/kankyo/1010761/1019539/1019540.html>

岐阜市の注目すべき生きものたち
岐阜市版レッドデータブック・ブルーデータブック 2023

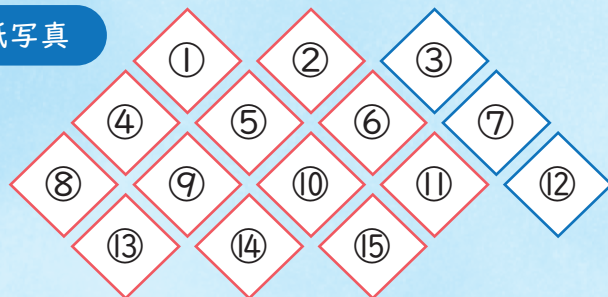


専門調査部会・岐阜市版レッドリスト等改訂検討委員

近藤 慎一 (植物)	寺町 茂 (魚類・甲殻類)
梶浦 敬一 (哺乳類)	野平 照雄 (昆虫類)
大塚 之稔 (鳥類)	川瀬 基弘 (貝類)
楠田 哲士 (爬虫類)	田中 俊弘 (全般)
高木 雅紀 (両生類)	野村 典博 (全般)

- 本書に収録されている内容、データは全て著作権上の保護を受けています。
- 著作権者の許可なしに、本書の内容をネットワークへアップロードすることや、他人への譲渡、販売、コピーなどを行うことは、一切禁止します。

表紙写真



- | | |
|--------------|-----------------|
| ① ヒメコウホネ | ⑨ コクロオバボタル |
| ② ニホンリス | ⑩ キュウシュウゴマガイ |
| ③ アメリカザリガニ | ⑪ サワガニ |
| ④ オオルリ | ⑫ ミシシippiaアカミガメ |
| ⑤ ニホンイシガメ | ⑬ サギソウ |
| ⑥ ヤマトサンショウウオ | ⑭ オオタカ |
| ⑦ オオキンケイギク | ⑮ シマヘビ |
| ⑧ イチモンジタナゴ | |

岐阜市の注目すべき生きものたち

岐阜市版 **レッドデータブック**・**ブルーデータブック** 2023 概要版

2023年3月 発行

発行者：岐阜市環境部環境保全課
〒500-8701 岐阜県岐阜市司町40-1
TEL：058-214-2151 FAX：058-264-7119
E-mail：ka-hozen@city.gifu.gifu.jp

岐阜市の注目すべき生きものたち

岐阜市版 **レッドデータブック**・**ブルーデータブック** 2023 がいようばん 概要版



岐阜市の注目すべき生きものたちってなに？

岐阜市には、清らかな水が流れる長良川や緑豊かな金華山をはじめ、水田やため池、里山など様々な環境とその場所に暮らす多くの生きものたちがいます。

しかし、人間による開発や工事、農業の使用などによって自然環境が変化し、生きものたちが暮らす場所が少なくなっています。

岐阜市では、市内の生きものの種類や生息地について何十年間も調査を行ってきました。その結果、昔と比べて減ってしまった生きものがあることや、人間の活動に伴って入ってきた生きものがあることが分かってきました。

こうした生きものたちの今を、多くの人たちに知ってもらうために、市内の絶滅が心配される貴重な生きものをレッドリストに、人間の活動に伴って入ってきた生きものである外来種をブルーリストに選び、「岐阜市の注目すべき生きものたち」(岐阜市版レッドデータブック・ブルーデータブック 2023)として作成しました。

この概要版では、岐阜市版レッドデータブック・ブルーデータブックを分かりやすく説明しています。

レッドリスト、ブルーリストの生きものについて、解説や詳しい情報を加えたものがレッドデータブック、ブルーデータブックです。



生物多様性とは？

生きものには、それぞれ個性があり、すべてがつながり、支え合って生きています。
この生きものたちの豊かな「個性」と「つながり」を、**生物多様性**といいます。
そして、生物多様性には、「生態系の多様性」「種の多様性」「遺伝子の多様性」があるとされています。

生態系の多様性



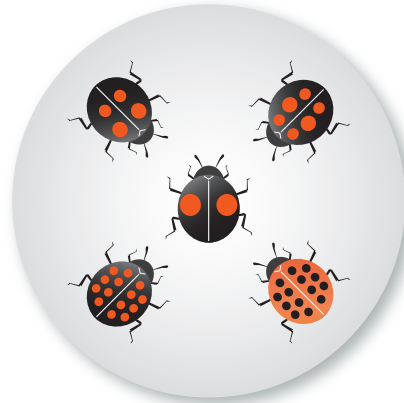
森林や川、水田など、様々なタイプの生態系があります。

種の多様性



植物、鳥、魚、昆虫など様々な種類の生物がいます。

遺伝子の多様性



同じ種でも異なる遺伝子を持ち、形や模様などに個性があります。

岐阜市の自然について

岐阜市の山々は、主にチャートという岩石でできています。
チャートは、放散虫という海の微生物の死がい長い年月（約2億6000年から約2億3000万年前）をかけて、海底に積もってきた地層です。チャートは、固く壊れにくいので、川や雨によって浸食されず、金華山や百ヶ峰のような切り立った崖のある山々ができたのです。

このような固いチャートでできた金華山は、植物が育つのに適した環境ではありませんが、ツブラジイやアラカシなどの常緑広葉樹が広く茂り、緑豊かな景観をつくり出しています。

また、市内の中心部を流れる長良川の水は、私たちの目の前を流れるだけでなく、地下にも多く流れ込んでいます。

これは水を通しやすい層が多くあるため、雨水や川の水、水田の水などが地中にしみ込み、それらが地下をゆっくりと流れて海へと流れ込んでいます。

地下をゆっくりと流れてきた地下水は、良質な水であり、最低限の消毒のみでそのまま上水道として私たちの生活に利用されています。



金華山



長良川



鏡岩水源地

急速に失われつつある生物多様性

様々な環境で多くの種類の生きものたちがつながっている「生物多様性」に、**4つの危機**が迫っています。

第1の危機

開発など人間の活動による危機

暮らしを便利にするため、道路や建物を作る木を切ったり、池を埋め立てたりするなど、人間によって自然環境がなくなってしまうことで、そこに住む生きものたちがいなくなってしまうます。



第2の危機

自然に対する手入れ不足による危機

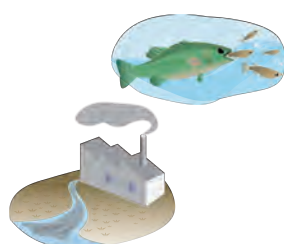
里地里山といわれる場所は、人が山の木を切ったり、草を刈ったりして手入れする必要がある。人による手入れがされない場所は、荒れてしまい生きものが減ってしまいます。



第3の危機

人により持ち込まれたものによる危機

人間が農薬を使ったり、川へ汚染物質を流したりすることで生きものが減ったり、外来種によって元々その場所に住んでいた生きものが減ってしまったり、いなくなってしまうます。



第4の危機

地球環境の変化による危機

地球温暖化の影響による気温上昇や異常気象、降水量の変化などは、生きものへの生息場所を減らしたり、開花や繁殖などに変化を及ぼし、生きものが減ってしまいます。



岐阜市の生きものについて

岐阜市内には、森林、畑地、水田、ため池、湿地、河川、住宅地など様々な環境があり、その環境に適応した様々な生きものが生育・生息しています。

令和3年度までの調査で、植物、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、貝類、甲殻類をあわせて5,809種が確認されました。

このうち、絶滅のおそれのある野生生物リスト（レッドリスト）にあがっている種数は420種、外来生物リスト（ブルーリスト）にあがっている276種です。

次のページから岐阜市内でみられる生きものを紹介します。

岐阜市内で記録のある動植物

分類群	全記録種数	レッドリスト掲載種数	ブルーリスト掲載種数	
植物	1,772	268	166	
動物	哺乳類	35	10	8
	鳥類	254	24	4
	爬虫類	22	6	9
	両生類	16	11	1
	魚類	74	27	19
	昆虫類	3,514	28	44
	貝類	113	42	23
甲殻類	9	4	2	
合計	5,809	420	276	

生きものの解説について

絶滅が心配されるとして、
レッドリストに選ばれた生きもの

- I 類** 絶滅危惧I類 (絶滅の危機に瀕している生きもの)
- II 類** 絶滅危惧II類 (絶滅の危険が迫っている生きもの)
- 準** 準絶滅危惧 (数が少なくなっており絶滅が心配される生きもの)
- 情報不足** 情報不足 (情報が不足している生きもの)

外来種 (人間の活動に伴って
入ってきた生きもの) として、
ブルーリストに選ばれた生きもの

- A** 侵入ランクA (市内に広く定着している生きもの)
- B** 侵入ランクB (市内の一部に定着している生きもの)
- C** 侵入ランクC (定着していない、もしくは定着し始めている生きもの)

岐阜市内にもともと生息していて、よくみられる生きもの

植物を知らう

ヒメコウホネ **I 類**



小川などに生育する多年草です。5～10月に黄色い花を咲かせます。達目洞の自生地では岐阜市が保全しています。

シデコブシ **II 類**



湿地の周りに生育する落葉広葉樹です。3～4月に淡い紅色の花を咲かせます。大洞に天然記念物の群落があります。

キキョウ **II 類**



草地に生育する多年草です。7～8月に青紫色の花を咲かせます。秋の七草の一つです。

カタクリ **準**



明るい林に生育する多年草です。4月に紅紫色の花を咲かせます。かつては球根から片栗粉がつけられました。

オオキンケイギク **A**



道ばた、土手などに生育する多年草です。5～7月に黄色い花を咲かせます。岐阜市内でもかなり広がっています。

シロツメクサ **A**



道ばたなどに生育する多年草です。4～10月に白い花を咲かせます。葉が3枚集まってつきます。別名クローバーです。

アレチウリ **B**



河川敷などに生育する一年草です。8～10月に白い小さい花を咲かせます。ツルで他の植物をおおってしまいます。

オオフサモ **C**



ため池、水路などに生育する多年草です。切れた植物の一部からも再生し、水面をおおってしまいます。

コナラ **C**



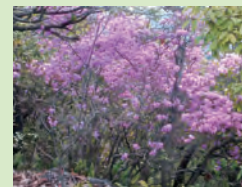
雑木の代表的な落葉広葉樹です。秋にどんぐりがなります。かつては薪として使われていました。

ツブラジイ **C**



森林に生育する常緑広葉樹です。金華山で多くみられ、開花する5月は山が金色にそまります。秋にはどんぐりがなります。

ミツバツツジ **C**



尾根や岩場など、かわいた場所に生育する落葉広葉樹です。葉が開く前の4月にも色の花を咲かせます。

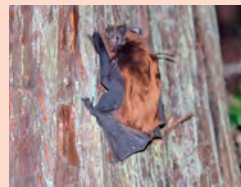
ヒメカンアオイ **C**



森林に生育する多年草です。丸い葉が目立ち、ギフチョウが葉のうらに卵を産み、幼虫が葉を食べて育ちます。

哺乳類を知らう

ヤマコウモリ **I 類**



社寺や公園の大木の洞(ほらあな)に群れて生息します。市内では家屋をねぐらとするものも確認されています。

カヤネズミ **準**



草地、水田、畑、沼などに生息し、ススキなどで球状の巣をつくり、子を2～4頭ほど育てます。

ニホンリス **準**



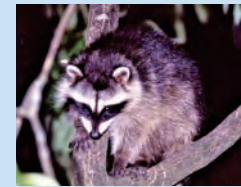
平地から山地の森林に生息します。秋にオングルミやアカマツが多い場所で見つけやすいです。

ヌートリア **A**



市内の水辺で広くみられ、岸に巣穴を掘ります。稲など農作物のほか、二枚貝も食べます。

アライグマ **A**



市内全域で広くみられ、民家の屋根うらにも住み着きます。イチゴなど農作物のほか、ニワトリも食べます。

クリハラリス (タイワンリス) **B**



市内では金華山一帯に生息します。果物や電線をかじったり、木の皮をはいだりします。

イノシシ **C**



市内の山地の雑木林に生息します。子イノシシは野菜のウリに似ていることから「ウリボウ」とよばれます。

タヌキ **C**



里山から市街地や河川敷などに広く生息します。大きな音をたてると目をつぶって動かなくなります(ためぎ寝入り)。

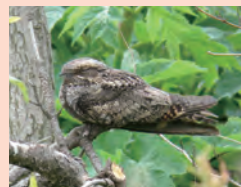
ニホンノウサギ **C**



山地から平地の河川敷などに生息します。夜行性で巣は作りません。草や木の皮を食べます。

鳥類を知らう

ヨタカ **I 類**



夏鳥として明るい林に渡ってきます。「キョッキョッキョッキョ…」と連続的に鳴きます。

タマシギ **I 類**



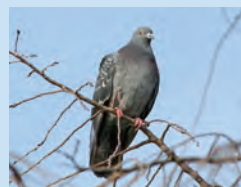
水田や湿地などに生息し、メスの方が羽の色が派手になります。オスが卵を温めたり、子育てをします。

ヤマドリ **準**



山地の林に生息し、さえずりの代わりに羽を強くはばたき「ドドドッ」という音を出します。

カワラバト (ドバト) **A**



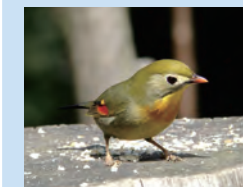
市街地の公園でふつうにみられます。式典での放鳥やレースバトが野生化したものも多いです。

ガビチョウ **C**



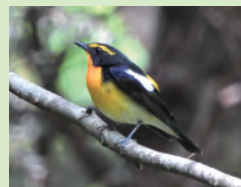
大きな声で「ヒョイヒョイヒョイヒョイ」とさえずります。ウグイスなど他の鳥のさえずりもマネします。

ソウシチョウ **C**



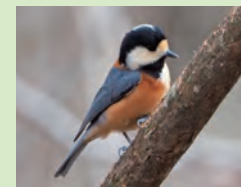
大きな声で「ヒュローン、ヒュローン」とさえずります。色がきれいなのでペットとして多く輸入されていました。

キビタキ **C**



夏鳥として明るい林に渡ってきます。「ピーリッ、ポピィ」と早口で美しくさえずります。

ヤマガラ **C**



木の洞(ほらあな)に巣を作ります。「ツツピー、ツツピー」とゆっくりさえずります。

カワセミ **C**



川や池の近くに生息し、小魚などを食べます。「チー、キッ、キッ、キッ」とさえずります。

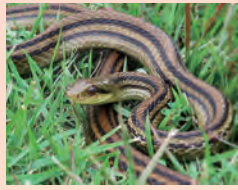
は ちゅうるい
爬虫類を知ろう

ニホンイシガメ **II 類**



市内全域に生息して、主に北部で見られます。甲羅の後ろがギザギザしているのが特徴です。

シマヘビ **準**



市内の山地から平地に広く生息します。茶色に黒い縦線が入った模様があります。

ニホンスッポン **情報不足**



市内全域の川や池に生息しますが、数はあまり多くありません。甲羅はやわらかく、水かきがよく発達しています。

ミシシippアカミミガメ **A**



市内全域の川や池に生息しています。子ガメの体が緑色なので「ミドリガメ」ともよばれます。

ニホンヤモリ **A**



市内全域の家屋に生息していると思われれます。夜に家の壁にはりついて、電灯の光にあつまる虫をたべます。

カミツキガメ **B**



足や頭が太く、甲羅の後ろがギザギザしています。最近、伊自良川の河川敷の畑で子ガメが見つかりました。

ヒバカリ



河川付近や山地の湿った場所に生息し、カエルや小魚などを食べます。毒はなく、おとなしいヘビです。

ヤマカガシ



川や田んぼなど水に近い場所に生息します。毒ヘビなのでさわらないようにしましょう。

ニホンカナヘビ



山地の林道や平地の草むらに生息します。つかまえるとシッポを切つてにげます。シッポはまた生えてきます。

魚類を知ろう

ニホンウナギ **I 類**



体が細長く、ふだんは石のすき間などにかくれています。成長すると海へ戻り、卵を産みます。

カマキリ (アユカケ) **II 類**



頭が大きく、えらぶたの上に曲がるトゲがあります。冬になると海まで下り、卵を産みます。

シマヨシノボリ **準**



ほほに赤色のミミズのような模様があります。繁殖期にはメスのおなかの色があざやかなコバルトブルーになります。

カダヤシ **A**



メダカに似ていますが、尾びれが丸いことで見分けがつきます。卵ではなく仔魚を産みます。

オオクチバス **A**



口が大きく、在来の小魚や虫などを食べるため生態系に大きな影響を与えています。

ブルーギル **A**



小魚や水生昆虫のほか、魚の卵も食べるため、オオクチバスとならび生態系に大きな影響を与えています。

オイカワ



市内の川で一番ふつうにみられる魚です。オスは春から夏に体の色があざやかな赤～青色になります。

タモロコ



体はやや太くずんぐりとしています。口にはひげがあり、体の中央には黒い帯があります。

ギンブナ



コイに似ていますが、口にはひげがありません。ほとんどがメスで、卵から生まれた子はメス親そっくり(クローン)になります。

両生類を知ろう

ヤマトサンショウウオ **I 類**



尾の上下が黄色くなる個体が多いです。樹木や竹林などの落葉や土の中に生息しています。

アカハライモリ **I 類**



背中が黒く、お腹が赤いのが特徴です。皮膚には毒がありますが、ふれても害はありません。

アズマヒキガエル **I 類**



体色はくすんだ灰色、茶色、黄色など様々です。ずんぐりとした体形で足も短く、背中にイボがあります。

ナゴヤダルマガエル **II 類**



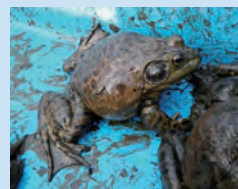
背中に丸い黒色の模様があります。ずんぐりとした体形で足も短い。水田やその周辺に生息します。

モリアオガエル **準**



背中は緑色で赤い模様があるものが多いです。水面上に張り出した枝などに白い泡状の卵のかたまりを産みます。

ウシガエル **A**



体色は黒ずんだ茶色から緑色です。大型で後ろ足が長く、水かきが発達しています。昆虫類のほかネズミなど、色々な動物を食べます。

ニホンアマガエル



体色は緑色ですが、周りの環境にあわせて灰色や茶色などに変わります。指先に吸盤があるので、壁なども登れます。

トノサマガエル



体色は茶色から緑色で背中の中心に線があるものが多いです。繁殖期以外は水辺から離れて生活し、草地や森林でもみられます。

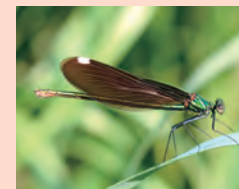
ヌマガエル



体色は灰色が混じった茶色で、黒いまだら模様があります。水田から街中の水路まで生息することができるため、個体数が多いです。

こん ちゅうるい
昆虫類を知ろう

アオハダトンボ **I 類**



小さい河川に生息します。体はキラキラした緑色で、羽は黒っぽい茶色です。成虫は5～7月に見ることが出来ます。

モートンイトトンボ **準**



体の長さが2,3センチほどの小さいイトトンボです。背丈の低い植物が生えた、あまり深くない池などに生息します。

ウラギンスジヒョウモン **準**



草地に生息し、幼虫はスマレの中間の葉を食べます。成虫は6月ごろから見られ、アザミの花などに集まります。

ベーツヒラタカミキリ **準**



体長2～4センチのカミキリムシです。日中はシイなどの木のくさっている場所にかくれ、夜に活動します。

クロゲンゴロウ **準**



体長2,3センチのゲンゴロウです。水生植物が多い池や沼、水田などに生息します。8～9月頃見られます。

モンシロチョウ **A**



ダイコンなどアブラナ科の農作物が持ち込まれたときに一緒に侵入したなどの説があります。

ギフチョウ



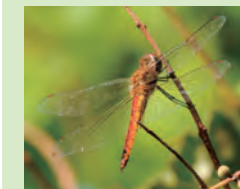
岐阜市では3月下旬から4月上旬に成虫がみられます。岐阜県ではじめて採集されました。

ミヤマクワガタ



山地によくみられるクワガタです。コナラなどの樹液に集まります。頭部の両側が張り出しています。

ウスバキトンボ

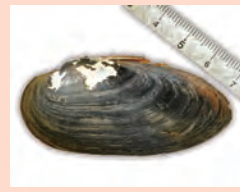


暗いだいたい色のトンボです。毎年南方から来ますが、寒さに弱いため、九州より北では冬を越せません。

貝類を知ろう

イシガイ

I 類



殻が横に長い淡水貝です。小さい時は魚のヒレやエラに寄生します。タナゴ類はイシガイのエラに産卵します。

ヤマタカマイマイ

I 類



殻が卵形の陸貝です。うすい茶色で周りに赤色の線が入ります。市の北部の限られた山地にしか生息していません。

ナミギセル

II 類



昔の人がタバコを吸うときに使ったキセルに似た殻の陸貝です。かつては並(ふつう)に生息したのでナミギセルと名付けられました。

ヤマナメクジ

II 類



大きなものはサツマイモほどのサイズまで成長する日本最大のナメクジです。あまり好まれないようで研究が遅れています。

コベソマイマイ

II 類



市内で最大の殻を持つ陸貝です。殻の下側のへそのような穴がとても小さいのでコベソの名前がつけられました。

ケハダビロウドマイマイ

準



殻は2センチ程度でまるく、殻の表面に少し荒い毛が発達します。体の色は黒っぽく、長く伸びます。

タイワンシジミ

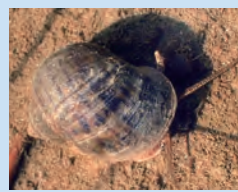
A



殻が黄色やオリーブ色などの淡い色のものが多いです。在来種であるマシジミに近い種類です。

スクミリンゴガイ

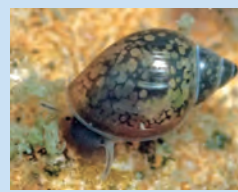
A



ジャンボタニシと呼ばれ、稲を食害します。水面より上の水路の壁や植物にピンク色の卵のかたまりを産みます。

サカマキガイ

A



都市の下水路など、かなり汚れた水域でも生きられるので、他の淡水貝が死んでも最後まで生き残ることがあります。

アツブタガイ



原始的な陸貝で、とても厚いフタをもつことが名前の由来です。触角は1対2本で、その付け根に眼があります。

イセノナミマイマイ

殻は黄土色でこげ茶色の帯が入り、4センチ程度に成長します。都市部の公園、神社や民家の庭にも生息します。

オオケマイマイ



殻は平たいレンズ状で3センチ程度に成長し、周りに太い毛が生えています。やや自然度の高いところに生息します。

甲殻類を知ろう

ミゾレヌマエビ

II 類



川の中流から下流に生息し、体の色は透明～うすい茶色で、胸の側面に茶色の「V」模様があります。

モクズガニ

準



川に生息する食用にされるカニで、ハサミに茶色の毛が生えています。秋に卵を産むために海に下ります。

サワガニ

準



なだらかな山の小さな流れや上流域で見ることができる身近なカニです。地方によって体の色が異なります。

アメリカザリガニ

A



水草をはさみで切ったり、水生昆虫を食べることで、生態系に影響を与えています。

カワリヌマエビ属

A



横から見ると背中がまっすぐに見えます。つりエサとして輸入されているほか、観賞用として売っています。

テナガエビ



オスの手(第2歩脚)は長く、体長の1.8倍にもなります。ハサミの先に毛が生えています。

自然にふれてみよう

自然とふれあう際に気を付けること

- ✓ 立ち入る際にはマナーを守りましょう(えさを与えない、ごみを捨てないなど)
- ✓ つかまえた生きものを自然に戻す際には、つかまえた場所に戻しましょう
- ✓ 自然とふれあうため、動植物を採集して観察・飼育することはとても大事ですが、必要以上に採集することはやめましょう
- ✓ 自然豊かな場所へ行く際には、肌をださない服装で
- ✓ 危険な生きものに注意(マムシ、スズメバチ、マダニなど)

自然とふれあう際の服装

リュックサック

水、食料、雨具、救急用品(ガーゼ、消毒薬など)、必要に応じて、虫よけスプレー、ルーペ、そう眼鏡、カメラ etc.

上着

長そでのシャツがおすすめです。肌がでていると、虫にさされたり、トゲでケガをします。また、黒い服はスズメバチにおそろわやすいといわれています。

くつ・長ぐつ

はき慣れたくつにしましょう。しめった場所を歩くときは長ぐつを用意しましょう。

ぼうし

陽ざしや虫などから頭を守るため、ぼうしなどをかぶりましょう。

手ぶくろ・軍手

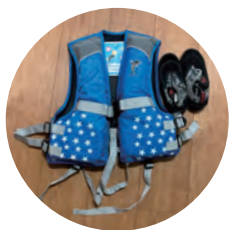
手を傷つけないためにも手ぶくろをしましょう。

ズボン

肌がでないように長いものがおすすめです。

川に行くとき

ライフジャケットやマリンシューズを用意しましょう。



自然にふれあえる場所

市内には、生物多様性が豊かで、たくさんの生きものたちに出あえる場所があります。その中から4か所を紹介します。



- ① 金華山
- ② 達目洞
- ③ ながら川ふれあいの森(三田洞)
- ④ 大洞

次のページでこれらの場所を紹介합니다。

① 金華山

【特徴】

岐阜市のシンボルである金華山は自然度の高い森林を観察することができます。

【主な環境】

ツブラジイなどの照葉樹林、天然のヒノキ林



【出あえる生きもの】



ツブラジイ



アラカシ



ミツバツツジ



コアジサイ



テイカカヅラ



ヒトツバ



クリハラリス
(タイワンリス)



オオルリ



ヤマガラ

② 達目洞

【特徴】

湿地が保全され、ヒメコウホネなど希少な動植物を観察することができます。

【主な環境】

ヨシなどの湿地、水田、逆川



【出あえる生きもの】



ヒメコウホネ



ミソハギ



ナガボノワレモコウ



ミズタガラシ



ノアザミ



ヒメガマ



モリアオガエル



ウスバキトンボ



ヒメギス

③ ながら川ふれあいの森 (三田洞)

【特徴】

遊歩道が整備され、自然散策、森林浴、野鳥・昆虫などの観察に適しています。

【主な環境】

コナラ、アベマキなどの雑木林



【出あえる生きもの】



アベマキ



アセビ



ショウジョウバカマ



イワギボウシ



サンコウチョウ



キビタキ



アズマヒキガエル



ギフチョウ



ヒオドシチョウ

④ 大洞

【特徴】

里山的な景観が残され、ニホンアカガエルなど希少な動植物がみられます。

【主な環境】

湿地、水田、雑木林、植林地



【出あえる生きもの】



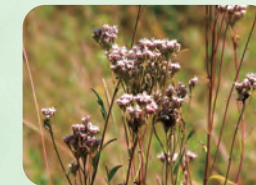
コナラ



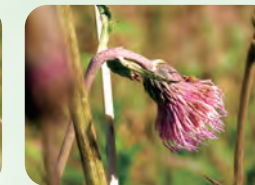
センリョウ



サワオグルマ



サワヒヨドリ



キセルアザミ



ミズギボウシ



ニホンアカガエル



ミヤマクワガタ



カブトムシ